

会員だより

鎌ヶ岳登頂

真柄 奨 書

西に鈴鹿山脈が連なり、その真西に中部地方ではポピュラーな御在所岳(1,212m)が聳えロープウェイの鉄塔が朝日に映えている。そしてその南の向かい側には鈴鹿山脈で最もアルペン的な山容で「鈴鹿の槍ヶ岳・マッターホルン」と呼ばれる「鎌ヶ岳」(1,161m)が均整のとれた三角形の勇姿を見せている。ある日数人が集まり鎌ヶ岳を見上げながら「いっぺんあの山に登ろう」ということになった。10月12日(土曜日)快晴「アイトム建設山登りの会有志」4人は、午前八時鈴鹿スカイラインの頂上付近にある武平トンネルの滋賀県側の駐車場に集合。

土曜日の事もあって駐車場は満車でびっくり。愛知や滋賀等の他県車が多く山の人気を実感。コースタイムが約二時間だが、山登りの経験者は小生のみ。従って鎌ヶ岳も小生以外は初めてで、登山届けを出し、少々不安を覚えながら数年前の記憶と案内標識を頼りに武平トンネルの坑口の上から登頂開始。この辺一帯の山は、花崗岩からなり、斜面では風化が進んでおり登り初めてすぐにガレ場で足が地に着かない。10分ほどで御在所方面(北側)鎌ヶ岳



▼ 鎌ヶ岳

方面(南側)の分岐に到着。暫く登ると格好良い形の「鎌の勇姿」が近くに姿を現した。「あれが鎌だよ」と話したら「近いやん」との声。それからは山容の如く勾配は急で、花崗岩の風化した岩場とガレ場に足を取られ大汗をかきながら「チョットなめたなー」の声も。頂上を前にしての急坂は、ロープや鎖で岩場を登る所だが、風化が進んで砂が洗い流され危険な為、籠を緩やかに迂回して一時間半で頂上に到着。少し風が合ったが普段味わえない新鮮な空気と景色を満喫。食事後帰山、麓の温泉で疲れをとり帰宅した。次回は「御在所岳」を春には「花の藤原」に登ろうと計画しています。会員の皆様も是非鈴鹿の山に挑戦してください。



アイトム建設(株) 真柄 奨

